

確かな学力の向上をめざし、主体的に学ぶ児童の育成

～思考力・表現力を高める授業づくりを通して～

研究目標

児童が主体的に学び、確かな学力を向上させるための授業改善の在り方について、授業実践を通して明らかにする。

研究仮説

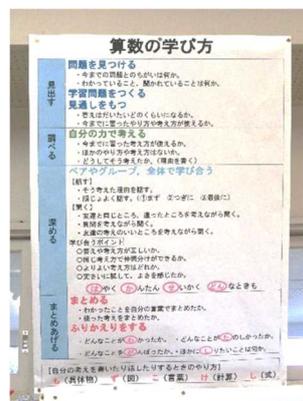
国語科と算数科の学習において、「見出す場」、「調べる場」、「深める場」、「まとめあげる場」の充実を図れば、基礎・基本が身に付き、自分の考えを進んで書いたり話したりすることができるだろう。

◆仮説検証のための具体的な3つの手立て

○授業改善

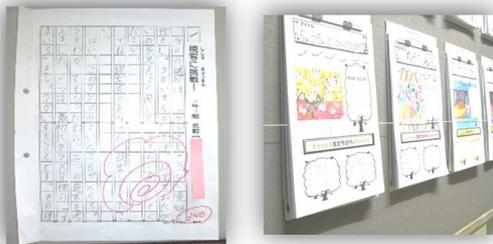
◇東陽小学校 学びのプロセス（授業改善の視点）

場	国語科	算数科
見出す	学習のゴールを明確にし、学習計画を意識させることで興味・関心をもたせる。	やってみたいやわくわくのある素材の選択及び提示の工夫をし、興味・関心や疑問をもたせる。方法と結果の見通しをもたせる。
調べる	教材文全体から視点をもって読ませるように工夫する。	既習学習を活用して考えさせる。「具体物」「図」「言葉」「計算」「式」を用いて表現させる。
深める	児童が読み取ったことを交流し、多様な読みに触れながら学び合い、自分の読みを深めさせる。	「学び合うポイント」を視点として考えを深めさせる。
まとめあげる	言語活動を通して、身についた力を活用していく。	「わたがし」を視点として、学んだことを記述させる。



○基礎学力向上の定着

- ◇朝の読書
- ◇ドリルタイムの効果的活用
 - ・「ちばっ子チャレンジ100」の活用
 - ・視写チャレンジ（書く力の向上）
- ◇学校行事の感想（書く力の向上）



○学習の習慣化

- ◇家庭学習の習慣化
 - ・家庭学習カードの作成
 - ・各クラスの模範になる自学ノートの掲示
- ◇家庭との連携
 - ・横芝光町「家庭学習の手引き」の活用
 - ・「学習便り」の発行
- ◇いきいき東陽っ子元気アップ作戦
 - ・生活習慣チェックによる保護者との連携
- ◇小中学校一貫の生活・学習規律
 - ・中学校区の9年間で守る生活・学習のルールの設定